

コミュニティへの参画および コミュニティの発展

コミュニティの発展に寄与する技術力の開発、助成事業の展開などを通じて、地域社会の一員としての役割を果たしていきます。



社会貢献活動の推進

社会貢献方針

基本理念

KDDIグループは、「KDDIフィロソフィ」にもとづき、当社が関わるすべてのステークホルダーのご満足を追求することで、持続的に世界中の人々が豊かで幸せな生活を送れる、笑顔あふれる社会の実現に貢献します。

行動指針

1. ICT（情報通信技術）の活用による社会課題の解決が、情報通信事業者としての社会的責任であると考え、すべての人々に安心・安全で快適なコミュニケーション環境をお届けすることを目指します。
2. 「デジタルデバイド*の解消」「健全な青少年の育成支援」「環境保全」「社会・文化支援」「災害時支援」の5分野を社会貢献活動の中期的テーマと定め、ネットワーク、商品・サービスなど持てる資源を最大限に活用し、KDDIらしいICTを活用した社会貢献活動を実践します。
3. ステークホルダーとのコミュニケーションを通じて、活動内容の継続的改善と開示・共有を図り、社会の発展に寄与します。
4. KDDIグループ社員は、社会貢献活動方針を共有し、よき企業市民として主体的な活動を行うことで、社会とともに持続的に成長することを目指します。

* PCやインターネットなどの情報通信技術を「持つ者」「持たざる者」との間に、情報格差が生じる問題。

社員参加型の社会貢献活動「+αプロジェクト」

「+αプロジェクト」は、KDDI独自の社員参加型の社会貢献プロジェクトです。プロジェクトメンバーが社内外で行った社会貢献活動に対してポイントを付与し、積み立てられたポイントを1ポイント100円に換算し、メンバーが推進する慈善団体などにKDDIが寄付をする仕組みです。2012年3月現在、全国約4,500名の社員がプロジェクトメンバーに登録しています。2011年度は、NPO法人「海外に子ども用車椅子を送る会」など14のNPO、NGO団体などに合計3,315,300円を寄付しました。

クリック募金「キボウのカケラ」

ひとつのやさしい気持ちのカケラが、たくさん集まるとキボウに変わる。そんな思いを込めた、ホームページ上に公開のクリック募金サイト「キボウのカケラ」は、お客さまのクリック数を1クリック1円に換算し、社会貢献活動を行っているNPOなどへKDDIが寄付を行うものです。2011年度は、総額2,327,727円の寄付を行いました。

地域社会への教育支援

タブレット端末（多機能携帯端末）を使用した教育支援

KDDIIは、文部科学省の「教育の情報化ビジョン」などにもとづき、学校・家庭・個人学習の分野において、ICTを利活用した質の高い教育への貢献を目指しています。

その取り組みのひとつとして、2011年10月から横浜市立白幡小学校においてAndroid™タブレット端末を利用した実証研究を実施し、タブレット端末（多機能携帯端末）のほか、ネットワーク環境および回答履歴から個人の進度に応じて学べる算数ドリルアプリケーション*など複数のアプリケーションを提供しています。

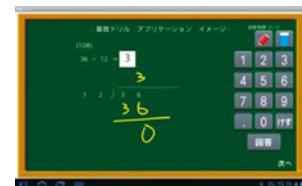
同年12月には、動画アプリケーションを使った公開授業を全国の教育関係者に向けて行い、児童がスピーチする様子をタブレット端末で録画、評価しました。さらに、体育授業では、アプリケーションの2画面比較機能を使い、お手本と自身の技の違いを確認することにも活用されました。

今後も教育現場におけるICTの有効性を検証し、現場のニーズに応じた支援を行っていきます。

* 問題提供：小学館



公開授業の様子



算数ドリルアプリケーション画面

地域社会とのコミュニケーション

KDDIでは、地域の皆さんとのコミュニケーションを深めるとともに、地域社会への貢献に取り組んでいます。

2011年度の主な社会貢献活動

2011年	4月	「山口市仁保地区アユの放流イベント」に参加（山口県）
		小山ネットワークセンターで「構内一般開放」の実施（栃木県）
	6月	「ごみゼロ・クリーンウォーク」に参加（広島県）
		「ラブアース・クリーンアップ in 北海道」に参加（北海道）
		「中海・宍道湖一斉清掃」に参加（島根県）
	8月	「高松市三谷地区の清掃活動」に参加（香川県）
		高知工科大学で「CSRセミナー」の実施（高知県）
	9月	「山口国体・山口大会クリーンアップ運動」に参加（山口県）
		「鳥取砂丘一斉清掃」に参加（鳥取県）
	11月	「広瀬川一万人プロジェクト一斉清掃」に参加（宮城県）
「山口県仁保大農業祭」に参加（山口県）		
「古河市八俣地区近隣3社合同による清掃活動」に参加（茨城県）		
12月	「博多駅前清掃活動グリーンデイ」に参加（福岡県）	
	ボランティア団体「サンタの会」の福祉活動に参加（栃木県）	
2012年	1月	「千代田区帰宅困難者避難訓練」に参加（東京都）

チャリティコンサートと学校建設

1970年代から1990年代初頭にかけて内戦状態だったカンボジアは、現在、学校教育面においても復興途中です。KDDI財団*では、2005年から毎年、カンボジア支援のチャリティコンサートを開催し、その売上金や会場での募金にKDDIからの協賛金を加えた金額を、学校建設のため、NGO「Japan Relief for Cambodia」に寄付しています。

この活動を通じて、国際化とICTに適応する人財育成を目的とした「KDDIスクール」を毎年建設しています。2012年1月にはタケオ州に7校目が開校し、開校式典には、生徒、学校関係者、村民ら数百名が参列したほか、タケオ州出身の郵電大臣が列席されました。また開校に際し、文化支援活動の一環として、カンボジアの伝統芸能「スバエクトム」（大型の影絵芝居）の存続を支援することを目的に、子どもたちが自国の文化を知るためのワークショップを開催しました。子どもたちは芝居一座の演技指導を受け、日没後は校庭で大きな火に照らされたスバエクトムの

影絵芝居を観賞しました。

* ICTの恩恵を広く社会に還元するとともに、ICTによる世界の調和ある健全な発展に寄与することを理念とする公益財団法人。



スバエクトムのワークショップの様子

開発途上国への教育支援

チャリティコンサートの売上金などによる寄付金で開校したカンボジアの学校に対し、通常のカリキュラムのほか、英語やコンピュータのクラスを開設するための支援を行っています。子どもたちが授業で必要となるパソコンやインターネット接続装置などを学校へ寄贈するほか、専門の教師の年間給与を寄付するなど教育環境の改善に向けた取り組みを行っています。

技術力の開発と提供

助成事業の展開

KDDI財団では、ICTの普及・発展に寄与する調査研究やNPOなどの社会的・文化的活動、外国人留学生への助成金支援のほか、特に優秀な成果をあげた研究に対して優秀研究賞を授与するなど、毎年総額8,000万円の助成事業を行っています。このほか、大学と連携した小中学生向けの理科実験教室も実施しています。

留学生への助成金給付においては、日本国内の大学院正規課程でICT関連の研究を進める外国人留学生に助成金を給付するほか、2011年度からは、海外（特に新興国・開発途上国）へ留学する日本人学生に対する助成を開始しました。



助成金贈呈式の様子

デジタルデバイド解消に向けたプロジェクト

開発途上国におけるデジタルデバイドの解消は、情報通信事業を提供する企業として、積極的に取り組むべき社会的課題と認識し、KDDI財団では、2002年度から継続してこの課題解決に取り組んでいます。

2011年度は、短波無線による音声通話利用のみであったマーシャル諸島の首都マジュロとメジット島間にインターネットなどの通信システムの設計・構築を行いました。また、ベトナムにおける視覚障がい者の生活向上のためのICT活用促進に向けた調査・研究などを行いました。

海外研修生の受け入れと技術コンサルティングの提供

KDDI財団は、KDD（国際電信電話株式会社）が1957年から行ってきた「海外からの研修員受け入れ」事業を継続して実施しており、2012年3月までに約144カ国、計5,600人以上を受け入れました。研修員は、帰国後それぞれの国で要職に就く方も多く、開発途上国の人材育成に大きく寄与しています。

また、政府開発援助にもとづく技術コンサルティング業務では、「ベトナム国南北海底光ケーブル建設計画」と「カンボジア国メコン地域通信基幹ネットワーク整備事業」を実施しています。



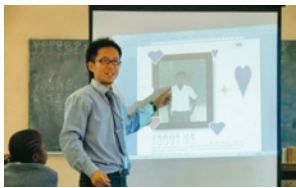
海外研修員の皆さん



研修の様子

青年海外協力隊・シニア海外ボランティアへの派遣

KDDIでは、独立行政法人国際協力機構（JICA）の青年海外協力隊・シニア海外ボランティアへ社員が会社に籍をおいたまま参加できる体制をつくり、派遣期間中に開発途上国のために十分活躍できるようサポートしています。これまでに青年海外協力隊、シニア海外ボランティアを合わせて22カ国への継続的な派遣を行い、その総数は61名になりました。



派遣先のナミビアの中学校でPCの授業を行う社員



授業の様子

玉川大学における「企業講座」の実施

KDDIとKDDI財団は共同で、玉川大学工学部で学ぶ学生を対象に、15回にわたる「KDDI企業講座」を企画・実施しました。2010年度から実施している同講座は、モバイルシステムを中心としたICTビジネスのエンジニアリング的側面からマクロ概況までを、幅広く学生たちに講義するものです。若手エンジニアの裾野拡大に貢献する活動として、今後も一層内容を充実させ、継続していきます。

「KDDI∞Labo」の設立

KDDIでは、グローバルに通用する革新的なインターネットサービスをつくり出す意欲を持った若いエンジニアを支援するプログラム「KDDI∞Labo（ムゲンラボ）」を2011年8月に開始しました。同プログラムでは、公募で選抜されたチームに対し、通信事業者の立場から、開発サポート、起業の際の経営サポート、プロモーション、出資や事業提携にいたるまで一貫して支援し、KDDI事務所内のコミュニケーションスペースの提供やサービス開発に必要な端末やサーバーを貸与するなど、さまざまな側面でサポートも行います。

2011年8月から10月に実施した第1期プログラムには、100社近くの応募から選ばれた5チームが参加し、審査の結果、Facebookの利用者同士でランチタイムに社外交流ができる「ソーシャルランチ」を最優秀アプリとして選考しました。2012年3月からは第2期プログラムを開始し、独創的なアイデアや技術の事業化に向けた支援を継続的に行っています。



「KDDI∞Labo」に参加する皆さん

国際提携によるサイバー攻撃の予知技術の研究開発

KDDIは、総務省の研究開発公募案件「国際連携によるサイバー攻撃の予知技術の研究開発」に、6法人・団体からなる研究機関の代表として協力しています。

近年、不正侵入や情報詐取などのサイバー攻撃がより大規模化、巧妙化しており、社会・経済活動に与える影響を無視できない状況です。総務省では、本プロジェクトを通じ、サイバー攻撃に関する情報収集ネットワークおよび国際的連携を強化し、ISP（インターネットサービスプロバイダ）や大学などと協力し、サイバー攻撃に対抗するための研究開発を推進しています。

KDDIでは、本プロジェクトの一環として、複数の海外拠点にサイバー攻撃を観測するためのセンサーを設置するとともに、KDDI研究所、財団法人九州先端科学技術研究所、株式会社セキュアブレイン、横浜国立大学、ジャパンデータコム株式会社と共同で、国際連携によるサイバー攻撃の早期把握・予知技術に関する最先端の研究開発を進め、国内におけるビジネス基盤にとって重要なネットワークインフラの安全性確保に資することを目指しています。